

「医療従事者における人体標本を用いた実習の 必要性」についての調査 2014年度

坂本宏史 川手豊子
関口賢人 成昌燮

A study on the needs of practical training for healthcare professionals, using anatomical specimens of human bodies in 2014

SAKAMOTO Hiroshi, KAWATE Toyoko,
SEKIGUCHI Yoshihito and SEI Syo-Syo

抄 録

2014年度5月に開催された、健康科学大学主催の医療従事者を対象とする解剖実習セミナー参加者に対して、参加者の情報（性別、年齢、職種、臨床経験年数）、人体標本をもちいた本セミナーのような実習の必要性、満足度、改善すべき点、などについてアンケート調査を行った。

昨年度の調査の反省から、アンケート用紙の回収をセミナー終了時にしたところ、回収率は86.5%に改善された。アンケート結果から、参加者は、セミナーに満足したこと、貴重な機会であること、今後も続けて参加したいと思っていること、が明らかになった。

臨床経験年数に応じて、基礎・系統解剖学的関心から、より臨床・局所解剖学的な関心を示すコメントが見られた。

キーワード：解剖セミナー
 コメディカル
 アンケート調査

健康科学大学（本学）では、山梨大学医学部の協力を受け、平成16年から「医療専門家のための人体解剖学講習会」（解剖実習セミナー）を毎年開催している。

この報告書では、2014年度5月3日（土）～5日（月）に開催された解剖学実習セミナー参加者を対象に行ったアンケート調査に基づいて、医療従事者における人体解剖学実習の必要性について検討した。

医療専門家のための人体解剖学講習会

このセミナーは、主に山梨県内の医療専門家を対象に、地域貢献の一環として、生涯学習（リカレント学習）の場を提供し、臨床上必要な解剖学の知識の向上を図ることを目的に、平成16年から3日間の会期で、年に1～2回開催されて来た。

各参加者が日頃感じている人体の構造に関する疑問について、人体標本を観察しながら本学教員を中心とする数名のスタッフが解説する形式を取っている。また2014年度は、セミナーのスタッフおよび、参加者の有志による解剖学に関連した1時間程度の講義を5月4日（セミナー2日目）と5月5日（同3日目）に行った。

方 法

アンケート用紙は各参加者がセミナーに参加した日に配布し、参加者それぞれの実習終了日に回収した。

アンケートの内容

解剖実習セミナーにご参加いただき、ありがとうございます。

本セミナーに対する先生方のお考えを伺って、このようなセミナーが広く認められて、もっと多くの関係施設で開催できるようになればよいと考えるようになりました。

そこで、参加された先生方の情報やご要望を集約した上で、発表する機会を見つけないかと思っています。また今後、このセミナーをより良い、参加しやすいものになりたいと考えております。以下のアンケートにお答えいただき、皆様のご感想・ご意見をお聞かせいただければ、大変幸いに存じます。

今回いただいた回答は、個人が特定されない形で処理され、皆様のご個人情報が漏れたり、上述の目的以外に使用されたりすることはありません。この調査についてご不審の点が生じ、あるいは、調査結果について興味をもたれた場合には、坂本（健康科学大学理学療法学科）までお問い合わせください。

○ご自身について（解答したくない項目は、記入しなくて結構です。）

性別：
年齢：
職種：
臨床経験（何年目）：

○解剖学セミナーについて

1. 人体標本を使った解剖学実習の必要性について
(A：常に感じる B：時々感じる C：感じたことがある D：ほとんど感じない)
2. 1で「必要性を感じる」と書かれた方に、どのような時に感じますか。
3. なぜこのセミナーに参加したいと思われましたか。
4. 今回セミナーで特に、確認したかったこと、知りたかったことは何ですか。
5. セミナーを終えて上の4の事項の達成度は次のどれに当たりますか。
(A：達成できた B：ほぼ達成できた C：やや不満 D：達成できなかった)
6. 今回の成果を具体的に書いてください。
(裏面もごらんください)

○ 開催方法、実習の進め方について

7. 開催頻度と開催時期について
(A：満足 B：ほぼ満足 C：やや不満 D：不満)
ご要望があれば、ご記入ください。
8. 指導方法に関して
(A：満足 B：ほぼ満足 C：やや不満 D：不満)
ご要望があれば、ご記入ください。
9. プログラム内容に関して
(A：満足 B：ほぼ満足 C：やや不満 D：不満)
ご要望があれば、ご記入ください。
10. 今後に向けて、興味がある、観察したい部位をご記入ください。(理由も合わせてご記入ください。)
11. 全体を通してご意見・ご要望をご記入ください。

以上、ご協力ありがとうございました。

結 果

セミナー受講89名のうち、(3日間受講：33名、2日間受講：18名、1日受講：38名)
77名から回収された(回収率86.5%)。

アンケート結果

(1) 参加者の情報

・性別

男：56名

女：21名

・年齢

20代：59名

30代：12名

40代：5名

50代：1名

・職種

理学療法士：56名

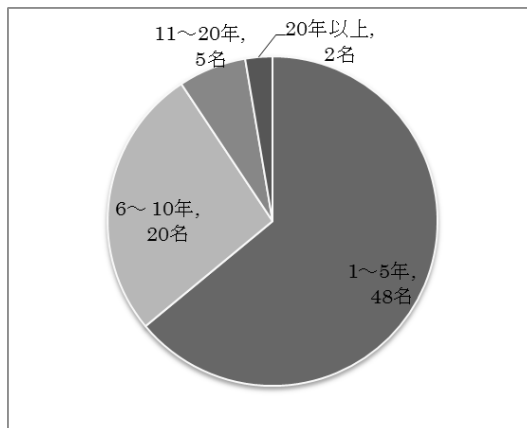
作業療法士：16名

鍼灸師：3名

言語聴覚士：1名

大学教員：1名

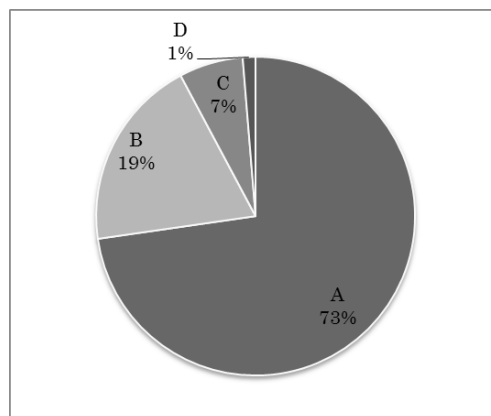
・臨床経験（何年目）



(2) 設問への回答

設問1. 人体標本を使った解剖学実習の必要性について

(A：常に感じる B：時々感じる
C：感じたことがある D：ほとんど感じない)



ちなみにDと回答した1名は、臨床経験1年目で、先輩の勧めで参加した、作業療法士、女性であり、Cと回答した5名の内訳は、職種：理学療法士2名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、男：2名、女：3名、臨床経験年数：5年2名、3年1名、1年2名であった。

設問 2. 解剖学の必要性を感じる時

- ・診療で患者に触れる際：31名
- ・書物や講習会で勉強中：17名
- ・障害・愁訴の理解：8名
- ・治療法を考える時：7名
- ・教育・指導時：2名
- ・CT・MRI 画像を見るとき：1名
- ・患者さんに説明する時：1名

設問 3. 参加の目的

- ・臨床技術・能力向上 / 知識をつけたい：29名
- ・書物の知識を実物で確認する：16名
- ・臨床時の疑問を解決する：9名
- ・他者の勧め：4名
- ・希少な機会：4名
- ・教育・指導に必要：1名

設問 4. 今回特に、確認しなかったこと、知りたかったこと

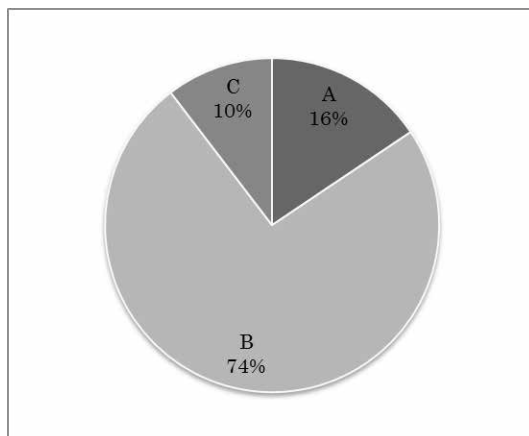
解答中のキーワードを、記述した人数の多い順に並べた。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ・筋全般、筋の走行（配置）：17 | ・筋連結：3 |
| ・末梢神経の走行：11 | ・靭帯：3 |
| ・肩関節：9 | ・関節全般：2 |
| ・膝関節：7 | ・中枢神経：2 |
| ・上肢の筋：7 | ・骨盤底筋：2 |
| ・下肢の筋：6 | ・肩甲帯・肩関節周囲の筋：2 |
| ・筋の神経支配：5 | ・膝窩筋：2 |
| ・内臓の配置：5 | ・筋膜：2 |
| ・股関節：4 | ・脳：2 |
| ・頸部の筋：4 | ・体幹の筋：2 |
| ・手の筋：4 | 以下は各1名の記述があったもの |
| ・足関節：3 | ・腰 |

- ・多裂筋
- ・股関節周囲の筋
- ・外旋6筋
- ・梨状筋
- ・内転筋
- ・腸腰筋
- ・大腰筋
- ・小腰筋
- ・足底筋
- ・第3腓骨筋
- ・足の筋
- ・筋腱移行部
- ・半月板
- ・膝蓋上包
- ・腕神経叢
- ・腋窩神経
- ・外側大腿皮神経
- ・伏在神経
- ・関節包の神経分布
- ・心臓
- ・呼吸器
- ・肺
- ・女性の内生殖器

設問5. 設問4に上げた事項の達成度

(A:達成できた B:ほぼ達成できた C:やや不満 D:達成できなかった)



設問6. 具体的な成果

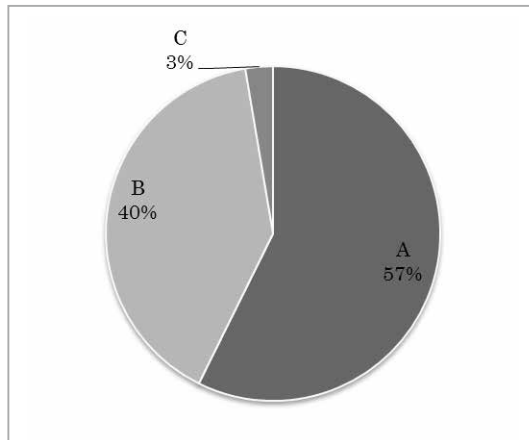
設問5のそれぞれの達成度の評価を受けて、具体的な成果を尋ねたところ、概ね、各自の「目標は達成できた」という旨の記述があった。

加えて、「セミナーに参加して新たな疑問が生じた」という記述があった。

また、達成度評価がCのアンケートには、「目標としていた全てを終了できなかった」、「セミナーに参加するための予習が不足していた」「理解しきれなかった」という旨の記述があった。

設問7. 開催頻度と開催時期について

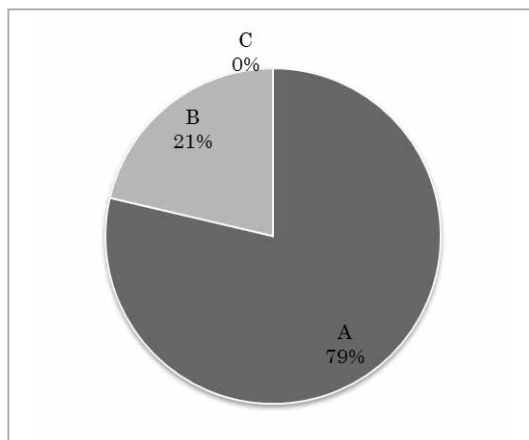
(A: 満足 B: ほぼ満足 C: やや不満 D: 不満)



年2回（複数回）開催希望（3名）および、夏期休暇中に希望（1名）があった。

設問8. 指導方法に関して

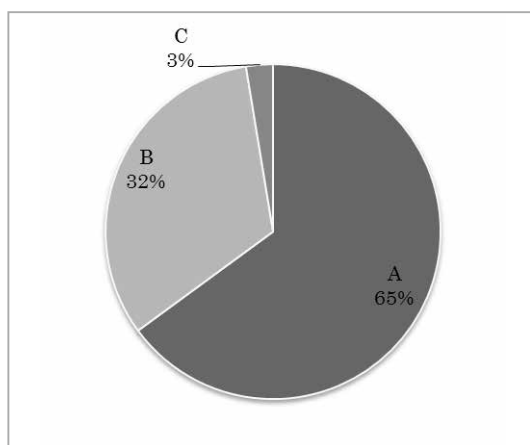
(A: 満足 B: ほぼ満足 C: やや不満 D: 不満)



「丁寧に指導してもらえた」（5名）の記述があった。

設問9. プログラム内容に関して

(A:満足 B:ほぼ満足 C:やや不満 D:不満)



「実習テーマを設定してほしい」(2名)

「座学を増やしてほしい」「座学が良かった」という記述があった一方で、「座学は不要」「実習時間を長くしてほしい」という記述もあった(各1名)。

設問10. 今後に向けて、興味がある、観察したい部位

解答中のキーワードを、記述した人数の多い順に並べた。

- | | |
|---------------|----------|
| ・脳・脊髄：6 | ・筋膜：2 |
| ・内臓 5 | ・嚙下：2 |
| ・体幹の筋：4 | ・上肢の筋：1 |
| ・頸部の筋：3 | ・骨盤底筋：1 |
| ・腸腰筋：2 | ・中殿筋：1 |
| ・手：2 | ・足の筋：1 |
| ・脳神経：2 | ・頸部の神経：1 |
| ・上肢の神経・腕神経叢：2 | ・腰：1 |
| ・上下肢の靭帯：2 | ・呼吸：1 |
| ・肘：2 | ・声帯：1 |
| ・腰痛：2 | ・内耳：1 |
| ・関節全般：2 | |

設問11. 全体の感想

- ・貴重な機会であった：16名
- ・また参加したい / 次回も参加したい：11名
- ・充実していた / 満足した：12名
- ・勉強になった：12名
- ・スタッフの対応が良かった：7名
- ・新たな課題を発見した：7名
- ・書物から得た知識を確認できた：7名
- ・セミナーの進め方が良かった：4名
- ・参加者同士の交流が良かった：3名
- ・臨床に活かしたい：3名
- ・疑問が解決した：2名
- ・座学を毎日行ってほしい：1名
- ・すでに解剖された標本のためわかりやすい：1名
- ・解剖前のご遺体を見たい：1名

考 察

人体標本を使う解剖学実習の開催について、わが国では死体解剖保存法により次のように定められている。「第二条 死体の解剖をしようとする者は、あらかじめ、解剖をしようとする地の保健所長の許可を受けなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りでない。(中略) 第2項 医学に関する大学(大学の学部を含む。以下同じ。)の解剖学、病理学又は法医学の教授又は准教授が解剖する場合(後略)」、「第十条 身体の正常な構造を明らかにするための解剖は、医学に関する大学において行うものとする。」この条文中の「医学に関する大学」とは、医学科または歯学科と解釈されていて、本学のような、医学科・歯学科を持たない、医療系大学が単独で行うことは不可能である。このため、本学の人体解剖セミナーも山梨大学医学部の協力を得て、開催されている。

一方、本セミナーへの参加希望者は多く、今回は89名の応募があった。平成16年に第1回目のセミナーを開催した際の参加者は10名あまりであったが、10年の間に大幅に増加した。平成16年のセミナー開始から数回については「『3日間参加できること』をセミナー参加の条件にしていたこと」が、当初の参加人数の少なさに影響していたとも考えられる。それに加えて、一度セミナーに参加した後、続けて参加するケースが多く見られ、新たに参加する人と合わせて参加者全体が徐々に増えたものと考えている。

また、参加者のほとんど(97%)が、「実習に満足またはほぼ満足した」という、アンケートの結果からも明らかなように、少なくともセミナーに参加した医療従事者には本学が開催しているような、解剖実習セミナーが役に立っていると思われる。

今回のセミナーに参加した医療職は、理学療法士 (56名)、作業療法士 (16名)、鍼灸師 (3名)、言語聴覚士 (1名)であった。山梨県の理学療法士会〔会員数745名 (平成25年7月23日現在)〕と作業療法士会〔会員数502名 (平成26年7月15日現在)〕には、同時に同様な方法で案内を出しているが、参加人数から想像する限り理学療法士に本セミナーの需要が高いようである。鍼灸師の団体に対して案内を出していないが、本セミナーのスタッフの個人的な紹介が参加のきっかけとなり、その参加者の紹介によって新たな参加があった。鍼灸師の診療には、人体標本による解剖実習が重要である事が伺える。

このようなセミナーへの参加者は、人体の構造に関心の高いやや特別なグループであるとも想像されるが、人体解剖実習は、大学や専門学校を卒業してからも、医療従事者に必要とされていると考えられる。

また、最近、医療関係の大学や専門学校が急増したことが一因と考えられるが、大学・専門学校の解剖学の教育の課程を、人体解剖実習 (見学) をせず終了する場合もあり、解剖学の教科書など、書物からの知識だけを頼りに診療することに不安を抱えているようである。

観察・確認したい人体の構造に関して記述されたコメントを集約すると、臨床経験年数が増えるに従い、全身の筋・関節・脈管など系統解剖学的な抽象的概念から、局所的 (例えば、肩関節周囲の構造、骨盤底筋、筋腱移行部の構造)・具体的な構造へと、関心が移行する傾向がうかがわれた。

参考文献

死体解剖保存法

助調査委員会 (佐藤巖, 加藤征, 大谷修, 松村讓兒, 平田和明) 編, アンケート「コメディカルの人体解剖実習についての実態調査」2004, 日本財団図書館 (<http://nippon.zaidan.info/index.html>)

坂本宏史, 野瀬朋宏, 成 昌燮, 河戸誠司, 川手豊子, 「医療従事者における人体標本を用いた実習の必要性」についての調査, 健康科学大学紀要 Vol. 10, 47-57, 2014

一般社団法人 山梨県理学療法士会 ホームページ (<http://ypta.jp/index.html>)

一般社団法人 山梨県作業療法士会 ホームページ (<http://ot-yamanashi.org/>)

Abstract

The purpose of this study was to investigate the needs for anatomical practical training for health care professionals, using anatomical specimens of the human body. A questionnaire survey was performed after a training seminar organized by the Health Science University in May 2014. Participants answered questionnaires designed to collect background information, perceptions regarding the necessity of the training seminar, interest in anatomical concepts, level of satisfaction with the seminar, and opinion on areas that need improvement. The response rate of the survey, which was administered one week after the seminar, was 86.5%. The surveys revealed that participants were satisfied with the seminar, considered it a valuable learning experience, and wished to participate in such seminars regularly. Participants tended to become interested in regional / clinical anatomy as their clinical experience increased.

Key words : healthcare professionals
seminar on anatomy
survey questionnaire